

授業科目名	【Gカリキュラム】 研究会 I・II ※本年度は開講せず 【EFカリキュラム】 研究会 I・II	選択履修	開講年次	【G】3 【EF】3	単位数	【G】2 【EF】2
科目区分	基本科目／【G】教科及び教科の指導法に関する科目 (-・-・-・-) / 【EF】教科及び教科の指導法に関する科目 (-・-・-・-)					
担当形態	単独	【G】教員の免許状取得のための (-・-・-・-) 科目 【EF】教員の免許状取得のための (-・-・-・-) 科目				
施行規則に定める科目区分又は事項等						
サブタイトル	刑法総論の判例を読む		担当者	小野上 真也		
授業概要	<p>【概要】 法律学で学んだことが、具体的にはどのように用いられるのか。これについては、実際に裁判で審理・判断された、判例を学ぶことが重要です。そして、判例が将来の判例・裁判例に対して、いかなる影響を及ぼすのか（判例の射程）も、重要な視点です。そこで、本研究会では、とくに刑法の判例を分析することで、事例としての判例・判例の射程の学習を行いたいと思います。本年度は、刑法総論の判例を素材とします。</p> <p>【到達目標】 本研究会では、判例報告担当者に報告してもらい、参加者全員で議論する、という授業形態を採ります。したがって、参加者の皆さんに、報告する能力、議論する能力を身に付け、それをより高めてもらうことを到達目標とします。そして、判例分析の力も身に付けてほしいと思っています。</p>					
履修条件	担当者による選抜に合格し、履修登録を許可された者であること。刑法概論を単位取得済であること。刑法総論 I・II、刑法各論 I・II については、単位取得済または並行履修していることが望ましい。					
教科書・参考書	<p>【教科書】 松原芳博編『刑法の判例(総論)』(成文堂、2011年)、山口厚＝佐伯仁志編・刑法判例百選 I (総論) [第7版] (有斐閣、2014年)</p> <p>【参考書】 適宜指示します。</p>					
授業回数	授業内容					
授業内容	<p>①松原芳博編『刑法の判例(総論)』(上記教科書)に記載されている判例ないし該当論文を分析し、報告していただきます。同書のうち、どの判例を扱うかは、初回授業の際に受講者と相談の上で決定します(1判例につき、2週分を割り当て、年間で15判例弱を扱う予定です)。各判例の報告に際しては、基本的に、山口厚＝佐伯仁志編・刑法判例百選 I (上記教科書)掲載の該当判例評釈・関連判例評釈も併せて検討していただきます。</p> <p>②担当者に各判例を割り当てます。担当者が担当判例について30分程度報告し、その報告を受けて受講者全員で議論する、という方法を採用します。議論を通じ、その判例がもつ意義、関連学説との関係等を学んでいきます。</p> <p>※なお、レジュメの作成方法、報告の仕方等、判例の意義・読み方については、初回から数回の授業を割り当てて解説します。</p> <p>基本的に、①②の方針で授業を進めますが、上記教科書以外の諸論文や新判例などを検討したいといった受講者の希望がある場合には、それら文献検討等も歓迎します。もちろん、その他、自分の興味のある刑法問題に関する研究報告等も歓迎します。</p>					
予習復習内容	<p>予習：報告者のみならず、受講者全員が事前に上記文献の該当箇所を読んでくることはもちろんのこと、各種教科書(判例百選も含む)、判例教材等で予習してください。また、報告者に関しては、最高裁判例について「調査官解説」がある場合、それも読んだうえで報告準備をしてください(なお、調査官解説とは何か、それを読む意義は何かについては、初回から数回の講義中で解説します)。</p> <p>復習：その回で学んだこと、議論したことをしっかり把握することにつとめてください。</p>					
評価方法	報告内容(70%)、授業(議論)への参加度・受講態度(30%)を総合して評価します。					
評価基準	上記検討判例について、その射程と学説との関係をよく吟味・理解し、適切に表現できた者には「A」を与えます。以上に関する吟味・理解や表現に不適切な点がある者はその程度に応じて「B」または「C」とし、単元の内容についての理解自体が不十分な者はその程度に応じて「D」または「E」とします。					
その他	<p>当然のことですが、全回出席を要求します。やむを得ない事情により欠席する場合には、初回授業において伝える方法において、事前に担当者まで連絡すること。無断欠席が3回以上となった者には、単位認定を行いません。</p> <p>※G 別：法【-】 法【-】 情【-】 / EF 別：法【必修】 法【必修】 経【必修】</p>					